

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立晃宝小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 76人 |
| ② 算数 | 76人 |
| ③ 理科 | 76人 |

5 留意事項

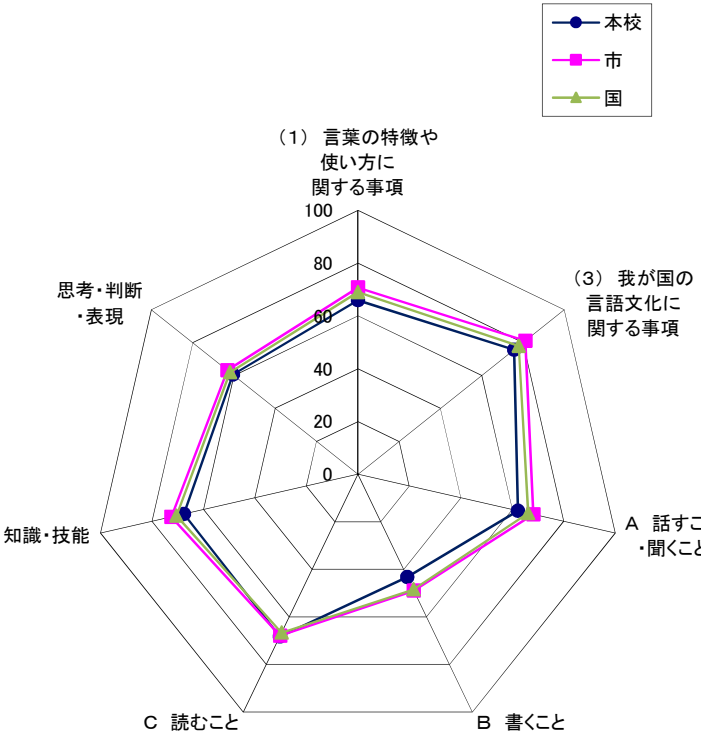
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立晃宝小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.9	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.7	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	62.2	68.2	66.2
	B 書くこと	43.2	48.9	48.5
	C 読むこと	68.2	67.9	66.6
観点	知識・技能	67.6	72.5	70.5
	思考・判断・表現	60.5	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

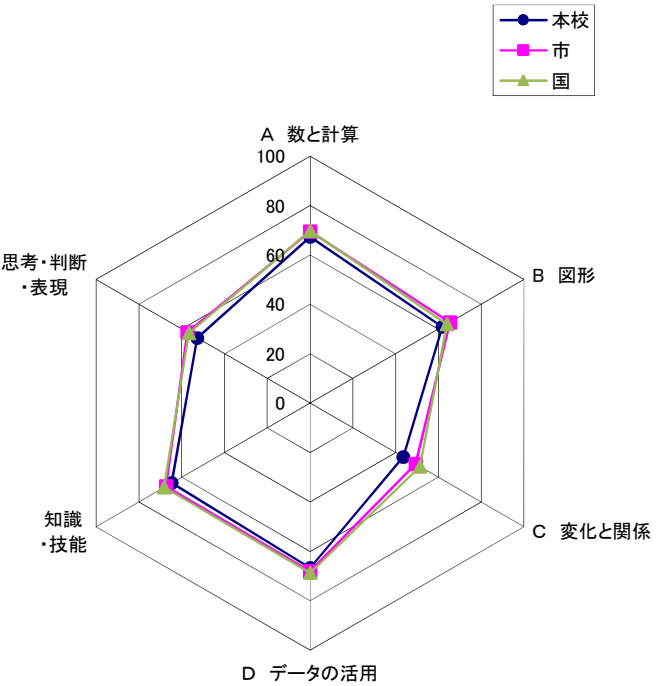
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題では、正答率が8割を超えていてよく身に付いている。 ●漢字を文の中で正しく使う設問では、正答率が全国より低く、課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し合い活動の中で、意図的に相手の意見を認め合う場面を取り入れていき、更に力を伸ばしていきたい。 ・漢字を身に付けるには、反復練習が大切である。一人一人にあった練習サイクルを確立させることで定着を図りたい。普段のノートや連絡帳などで、意識的に漢字を使う経験が必要であり、継続的な指導を進めていきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題では、県、国と比較して正答率が下回って課題が見られた。行の中心に文字の中心をそろえて書いていることを捉えることができていないことがつまずきの要因と考えられる。	・読みやすい文章を書くために、授業でノートをとる際、丁寧に書くことや漢字や仮名の大きさ、配列に注意するよう更に指導していく。書写の授業においても、行や文字の中心を意識させ、相手に読みやすい字を書けるような指導を心がけていきたい。
A 話すこと・聞くこと	○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる設問では、正答率が全国を上回っている。 ●必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える設問では、全国を下回っており、課題が見られる。	・今後もペアやグループでの話し合い活動を多く取り入れていく。その際に、自分の考えを明確にしたり、相手の考えと比べたりするために、話し合いメモを活用していく。 ・話し合いの目的や相手意識を大切にしたり、必要なことを質問したりすることで話し合い活動が効果的に行われるよう指導していきたい。
B 書くこと	●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題と、文章に関する感想や意見を交わし合い、文章のよい所を見付ける問題のどちらも正答率が5割以下であり、課題が見られる。	・意見文を書く際には、基本となる「頭括型」、「尾括型」、「双括型」があり、その特徴やよさにはどのようなことがあるのかを再度復習する。その上で、自分の意見を伝えるためにどの方法を選ぶのか考え、選択させて、文章を書く練習をすることで、書く力を伸ばしていきたい。また、自分が書いた文章を友達と読み合い、よさを認め、伝え合う活動を取り入れていく必要がある。
C 読むこと	○物語文における登場人物の行動や気持ち、相互関係などについて叙述や描写を基に捉える問題は全国の正答率を上回っている。 ●物語文の表現の効果を考える問題では、全国の正答率を下回っている。	・今後も物語文において登場人物の心情を考えたり、相互関係を捉えたりする活動を多く取り入れていく。 ・物語文における様々な表現が読み手に与える様々な効果について考えさせ、伝え合う活動を意図的に取り入れていきたい。また、選択問題の解答の際に本文の内容と照らし合わせながら、適切でない選択肢を除きながら正答を導き出していく解き方を身に付けさせていきたい。

宇都宮市立晃宝小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.3	69.5	69.8
	B 図形	61.8	65.4	64.0
	C 測定			
	D 変化と関係	43.6	49.3	51.3
	E データの活用	66.7	68.0	68.7
観点	知識・技能	64.7	67.3	68.2
	思考・判断・表現	52.7	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

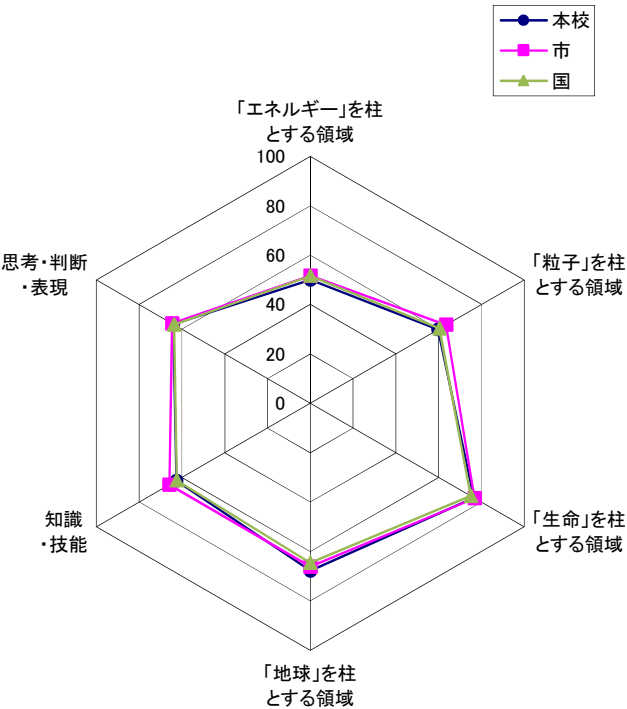
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○日常生活の場面に即して、倍数について理解する問題の平均正答率は、全国の平均を上回った。 ●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考える問題に課題があった。	・示された場面において、数を大きくみたり小さくみたりするなど、目的に合った数の処理の仕方に慣れさせたい。 ・アンケート調査等の分類整理されたデータを基に、目的に応じたデータの特徴を捉え考察する場面を増やしていきたい。
B 図形	○正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、言葉と数を用いて記述する問題の正答率が高かった。 ●示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断する問題の正答率が低かった。本設問は、コンピュータを用いて作図することに関する問題で、示されたプログラムについて考察することが、つまずきの要因と考える。	・角の大きさに関わる数学的活動を通して、角の大きさを回転の大きさとして捉えることや、図形の描くときの大きさに着目し、角の大きさを柔軟に表現したり、図形の考察に生かしたりすることを復習させていきたい。 ・プログラムを用いた作図に関する類題を多く解かせたい。
C 変化と関係	○百分率で表された割合と規準量から比較量を求める問題での正答率が県とほぼ同じであった。 ●伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がみられた。	・問題を解決するために見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法を説明する活動や記述する活動を取り入れ、子どもたちが理解しやすくなるように工夫するなどして授業を行う。
D データの活用	○表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目にあたる数を求める問題の平均正答率が県の平均より高かった。 ●目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題の平均正答率が低かった。	・二次元表の分類整理について、数値がどんな意味を持つのか問題文から読み取れることを整理したり、書き込んだりして理解が深められるよう指導の充実を図る。 ・統計的に問題解決する力を身に付けさせることができるよう、目的に応じて、データを集め、観点を決めて分類整理し、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取る学習を十分に行う。 ・社会や理科の統計グラフや新聞教材とも関連付けて学

宇都宮市立晃宝小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	50.0	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	59.7	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	76.5	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	67.8	66.1	64.6
観点	知識・技能	62.6	65.9	62.5
	思考・判断・表現	64.1	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県、国の正答率よりやや低い結果となった。 ○「鏡で跳ね返した日光の位置が変化していることを基に継続して同じ条件で実験を行うために方法を見直し新たに追加した手順を書く」問題では、全国・県の平均を上回っている。 ●「実験に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く」問題では、大きく下回っている。	・実験の手順や準備物を考える活動は、どの学年、クラスでも重点的に指導してきた効果が出ているように思う、今後も重点的に指導していきたい。 ・実験、観察の後や仮説を立てる活動では、根拠を示して発言するように指導しているが、その根拠の基となるデータがどこからのものであるかを確認し、今までの学習が中心となるよう指導していきたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県、国の正答率よりやや低い結果となった。 ○「メスシリンダーの正しい使い方」「凍った水溶液について、試してみたいことを基に見いだされた」問題では、全国・県の平均を上回っている。 ●「一定量の液体の体積を適切に測り取る器具の名称を書く」「水溶液の凍り方についてそれぞれの水溶液の凍る温度を見出し問題に対するまとめを選ぶ」問題では、全国、県の平均正答率を下回っている。	・メスシリンダーの名前は知らないが、扱い方は分かっている状況が読み取れる。器具を扱う際に、きちんとその名称を確認して、扱い方についても丁寧に指導していきたい。 ・各単元の週末にまとめる活動を設定し、取り組ませているが各実験後にも丁寧にまとめの作業に取り組ませ、その経験を積ませていきたい。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県では同程度、国ではやや上回る結果となった。 ○「見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものか選ぶ問題」「資料を基に、カブトムシの育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ問題」では、全国、県の平均を上回った。 ●「昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明する視点を選ぶ問題」では、県では国では同程度であったが、県の平均は下回った。	・様々な資料から考える活動、友達の意見に対する自分の意見の確立を重点的に指導している。引き続き、同様の指導をしていきたい。 ・確かな根拠から自分の意見を確立させることが難しいため、これからもその場面を活動内に設定し、経験を積ませていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県、国の正答率を上回る結果となった。 ○「結果からいえることは提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ問題」「夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題」で国、県の正答率を上回った。その他の設問においても同程度かそれ以上であり、よい結果となった。	・「地球」に関すること、自然の分野においては、授業中에서도関心意欲が高く、知識としても定着していることがわかる。この関心意欲を継続できるように、現時点の知識を次につなげられるよう一人一人の学習状況を観察し、細やかな支援を続けていきたい。 ・教科書のための知識ではなく、体験・経験として捉えられるようにその機会を増やしていきたい。

宇都宮市立晃宝小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食をとっていますか」の設問に80%を超える児童が「している」という回答を述べている。これは、各家庭での生活習慣がしっかりしていることが予想され、安心できる結果であるが、さらに高めるために朝食の重要性について啓発していきたい。

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の設問に肯定的回答が74%となり全国や県の数値を上回っている。学校にタブレットコンピュータが導入されたことからこの設問の重要度は高く、それが高いことはよいことではあるが、更に数値が高まるよう家庭へ保護者会、学年通信等で啓発していきたい。

○「友達と協力するのは楽しいですか」の設問に77.9%の児童が「当てはまる」と回答しており、全国や県の数値を上回っている。今後も友達と協力して、一つのことをやり遂げられる場面を多く設定していきたい。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問では、肯定的回答が81.9%と全国、県の数値と比較し高い数値を示している。これは、教育相談等で十分に時間をとって一人一人の児童の話を聞いてきたため、児童に教師に相談できるという安心感を与えられた結果であることが予想される。

●「将来の夢や目標を持っていますか」の設問では、「当てはまる」の回答では全国、県を下回っている。これは、児童が将来に夢を持っているが、不安を感じている児童も少なくないことを示している。今後、キャリア教育を重点化し、中学校への不安を取り除く指導を増やしていきたい。

●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問では、多くの児童が肯定的回答をしているが、100%を目指さねばならない項目であるので、教科の道徳、教育相談、日常生活指導において徹底して指導、支援をしていきたい。

●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の設問では、肯定的回答が58.5%となり、全国や県の数値を7ポイント近く低い結果となった。このことは、発表の仕方について考えたことが少なく、工夫する内容や教科の理解が低いことが予想される。今後は、発表の機会を増やし、その工夫の仕方等について指導していきたい。

宇都宮市立晃宝小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
分かる授業づくり	授業の始めには、めあてを提示し、話し合い活動を取り入れながら考えを深めたり広げたりして学習を進め、最後には学習の振り返りを行う。このような一連の授業を展開し、学習内容の定着を目指している。	「5年生までに受けた授業は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」について、肯定的回答が58.5%と全国、県に比べ下回っていた。 各教科の平均正答率は、県平均を全体的に下回っていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○基礎・基本の定着	○基礎・基本の定着とを目指した学習指導の工夫と家庭学習の習慣化	○学年でパワーアップシートや宮っ子ステップアップシート、AIDリル等を授業や朝の学習、家庭学習で活用していく。 ○習熟度別学習、少人数指導やT・Tによる指導等の個に応じた支援を充実させる。